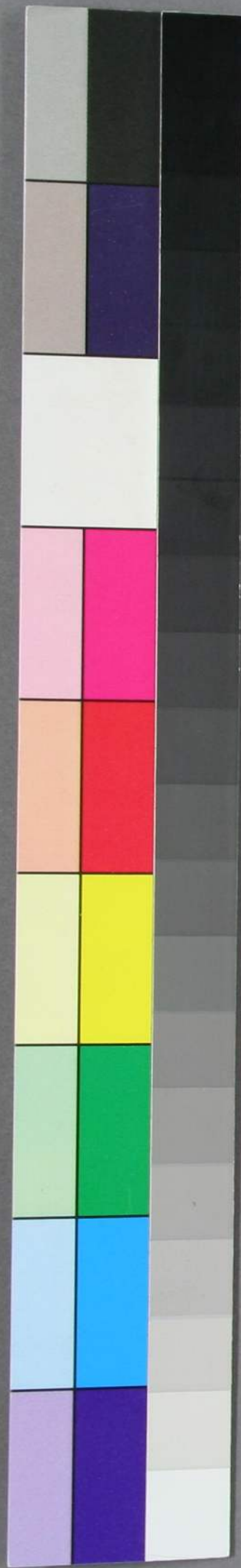


花
八
笑
人
三
編

上
二

13
3094
5



特

へ13
3094
5

迎状



蓋河校婦能出所出まの如理
口候もなほいふれバけ極お續き
おり中山花見茶屋の存州方
はよき連中お候くはあひ帯ひ



此度只是誰々首尾能く
しる作者も迷惑し
何分一下當りて市
拙意も知れぬ
小園系
此合

中書子

佐次郎
眼七

安波古柳様
率八郎様
改茂六様
春七様

出目助様
野呂松様

の御座り申すは方々今日御事成は
高野川み井春そとるひ幣へく
心ざらぬは運のほろの心後白は根
石を成は給ぬま中へ

眼七

文永堂開版

目録

あつり
けいし
和合
人
全三
瀧亭
鯉丈
作
画
英泉

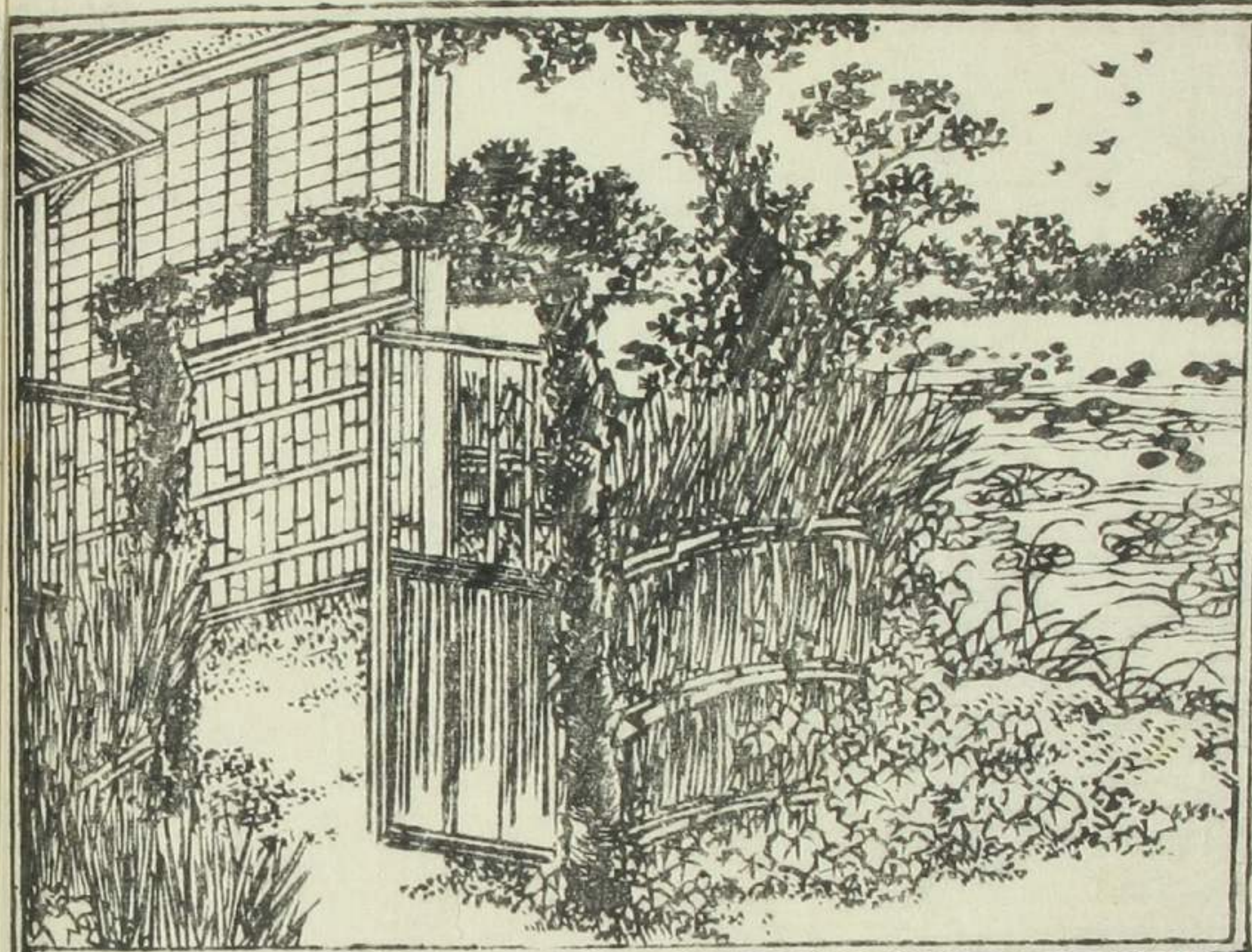
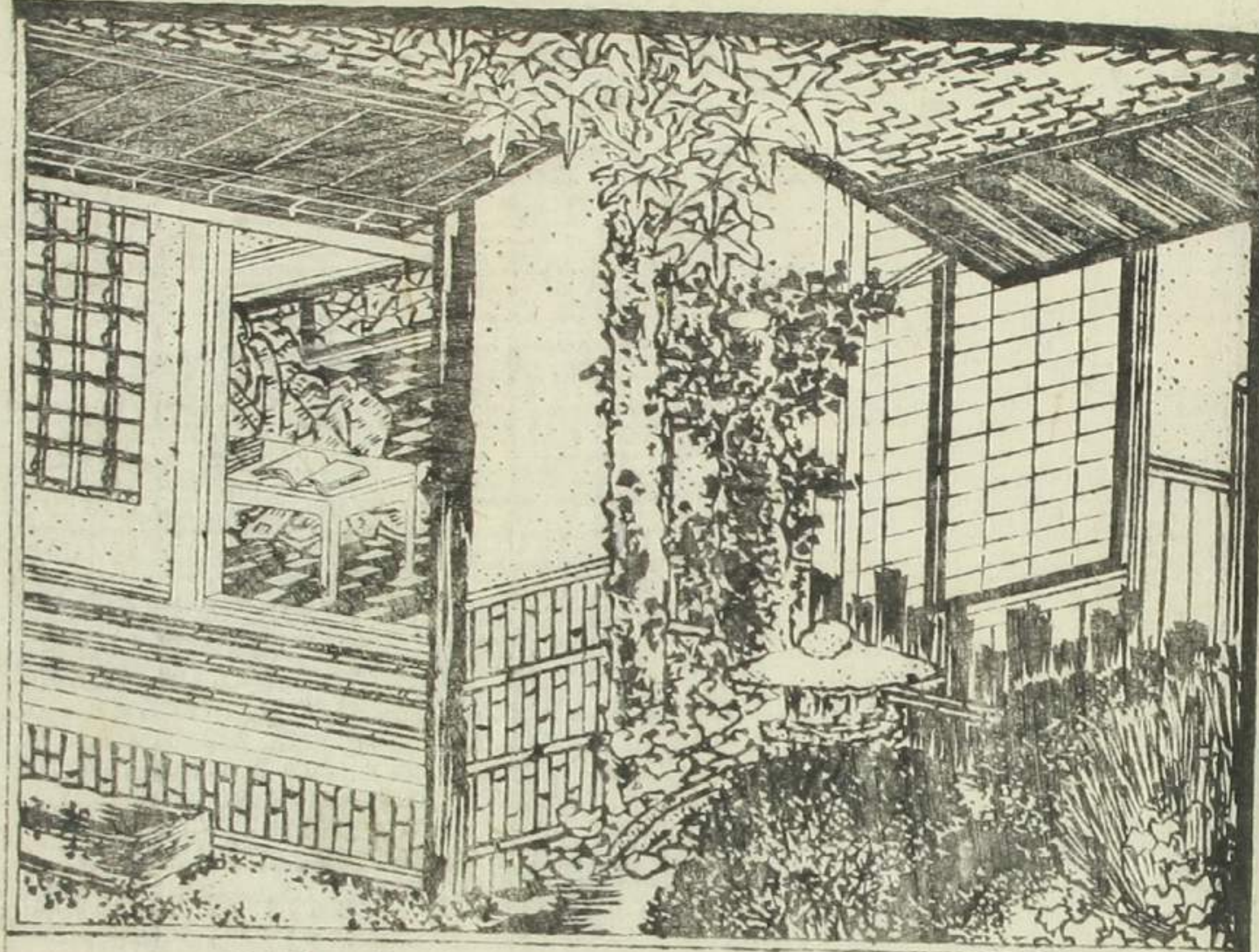
せん
千社
利生
札數

初編
三冊

此巻紙ハ六河海院ハ地蔵三不動一円通の
速足より五番目なるの巻紙者初年
新づく綴るこそ

作者

鯉丈
楚満人



口を解るりの八笑
 人が花見の趣
 向毛相草体の
 三編目ま相六
 らび石部金吉
 顯とてめてめ
 笑ふ門吏
 福来
 さう合の
 方酒
 笑ひ詩
 二首
 駒人誌

美原の才あがりの
 おねかきもあつた
 とまて後と垣
 させハのあけ初
 雲のわうき障り
 佐保雁もあつた
 強ハいほつた
 滑稽ハせにお
 樹の花もあつた
 古人大
 池の

花暦八笑人第三編上冊

江戸 瀧亭鯉丈著

初編目次西国川

催涼蓮池之會合

春過く夏来りけしきのみをさびひ〜
前々の季遠ひ六彼本丁菴の我小歌歌秋歌歌
と漉字盡のうそる〜
八笑人々の座の佐次郎八世間晴〜

人同忍なごの池の邊の春余の青葉涼き夏木
立船身さす我信よ道こころる座の戸表の方より
是者八序文に記せ〜
打掃よる六人達先にさる安波太郎
佐次郎さる八世在者でござりまする
す〜がそれには安波を率八段氏六香七助自助
財品松打掃ひす〜
お杉ひす〜



毛屋人の
六丁一里
伊の五
走られた

吾日の本
三夜くた
鼻のこま

八代の一
唐の物

平
八
おや
おや

平
おや
おや

八三

くらんはごとも。おひやくせえアひのいひ俗人
だ。物もいらひもあえまう。ひのいひと物もあえぬ
眼もトらそ。ひのいひとぬとやらむよはまじしと
ちしとも。まののいおまじしとむまじしとアイヤ
まは互あつゝある。皆様あふあれ。さんトまはせ
奉へらうさぬ。お次の教色。録りきこるふつらぐ
ごごらうままじし。おへをたぐ。それにははがら
くらん板。意對し。まがま。冠。さんと書かぬと

つり合あよふで。びびりまゝテ 幾六へ 如ごと極たある
たのよくかんづれと。さうさうしん又何えのちあつと
どんぞ。獨お々おむりく致さて。是こく来まつと斗たぶぶひ
きつが来まつと。故ゆりことぞんじほしと 幾き六ろく「コレ眼七
どんぞ。さうで来まつがぶら〜このぞ眼七〜むむきん
いざつませんが。あもこの方の祝いわ身みが同お足あ津つて。さう
お。か。か。つとものりまれません。こころ〜んモウ「apan
奉ほう八はち「ヤレ〜 幾き六ろくやあ次の若わかがあちを向むはしてら

けうちおくおよりさうん。さても同お先さつてむむこれ
ませんぶ「マツ〜 あら。奉ほう八はち「サ、おらまういさる〜
「あつらぶト何なにうあつら〜 幾き六ろく「僕ぼくをやき後ごい。さ
絶たま〜と。まのり子こ清き雪せる。何なにう高たか年ねんハ、捨す別べつの
大お暑なつあて。何なにう清き配はいの辰あ入いり。まのりまのりあ
ま〜。よめその清き入い来き。作さくの通とう旧きゅうあつら
えままれば。殊ことのおおあつ〜ごさうまのりア〜
〜のりも。幾き六ろくは幾き六ろく〜。幾き六ろくのさう

精ごともやまの 産へん 女征とれハ下ノ不賞
脱いしまの 世言しき 競を一牛はじ上ませう
とぞんぞ。今新うあましき 生洲へ往くおき
ましとおが。あまう 生洲を掃除致し水をか入はし
たら。湯うがもくろりほして 脱ぎのり
仕露ましき 産へん 産へん 産へん
世言しき あまうをいっぢの 上ませう
ちんをてんびんま 以 挑灯な 鐘を 飽とやまませる 次ハ 行
うけていごい

南イとヤリでどぞんりまも産へんや何ようのぬ
物まふ今日ハ 精を日ゆい 産産丁致ませう
み香を入るう日ぐ 産へん 産へん 産へん
あま 産へん 産へん 産へん
む。産へん 産へん 産へん 産へん
宿でやまの 池の 湯をぬで 用掛が 産へん 産へん
どとやまの 産へん 産へん 産へん 産へん
る。私家ノ 先祖大食乱。小もそれの代ハ 産へん

ころ。まゝとありがる宝物がござりませぬ。又宝
 場へお貸申ませうとぞんじて持来致しはしと
弱政の内田 此の官戸川より出現すはしる所の
酒を理如来の尊像 望の大河の流河より下
 指しとる輩の物賣賽難く人の心をのぐ
 苦むるふ知又無當取をせむとの。後
 転るればいづる癖と。女をうませう。取せハイ
 ぞんぞん宝あゆみ。

又蠅帳をお買ひあらされと。又妻ひよと
 そのほくむとく人の心をせくさう上りやうとぞん
 とく。別ちこれへ持来致しはしと。ト女其戸の画
 是がまづ。存禪の豆でござりませぬ。又
 納豆でござりませぬ。ト中候い去れお寺さぬの嘆
 の。トトヤるでござりませぬ。是れよく
 柳子で味をよまさんませぬ。武へさそくは徳のチト
 相を出来むとぞんじませぬ。田舎ねむの



鐘の番でござりませぬは是が則ち梅がえ田まで
ござりませぬは是は清自画と云くませぬト
一や。貴航い〜ませぬ武〜と云でこれハちと
時代を繪で清自の妾で貞女を繪く貞女
ま〜を自慢の常盤味をま〜今吾どころ
牛馬の教の子もとてあげませぬは是ハ〜
い〜の好物を繪くござりませぬ
車へイ私〜みまんの不便ある〜
たぐよ〜とござりませぬは是者を一様持来致〜
ま〜がちと春が張ま〜は車を一様存する〜
さんどま〜は先車は〜を。チトは付〜
ませ〜ト車カのみひみ〜ハ〜ハ〜は繪入武上〜
から池の場ま〜子ト繪の素物の画を
ござりませぬ。ウ〜ハ〜揚〜はます。タイあ
〜川の様ハ。先次希〜ませぬは〜か〜
ま〜は〜イヤ〜こ〜は〜

鐘の番でござりませぬは是が則ち梅がえ田まで
ござりませぬは是は清自画と云くませぬト
一や。貴航い〜ませぬ武〜と云でこれハちと
時代を繪で清自の妾で貞女を繪く貞女
ま〜を自慢の常盤味をま〜今吾どころ
牛馬の教の子もとてあげませぬは是ハ〜
い〜の好物を繪くござりませぬ
車へイ私〜みまんの不便ある〜
たぐよ〜とござりませぬは是者を一様持来致〜
ま〜がちと春が張ま〜は車を一様存する〜
さんどま〜は先車は〜を。チトは付〜
ませ〜ト車カのみひみ〜ハ〜ハ〜は繪入武上〜
から池の場ま〜子ト繪の素物の画を
ござりませぬ。ウ〜ハ〜揚〜はます。タイあ
〜川の様ハ。先次希〜ませぬは〜か〜
ま〜は〜イヤ〜こ〜は〜

子 子の猪子の中づきづきいもまきとど。とせんしんく
 さぬい^かは^{あつ}も^ちや^ない^らむ^らが^づら^りも^うす^が今^日是^レ
 曲^まの^節。新^ぬ敷^きを^あ換^かへ^りと^そ入^いり^とさ^らが
 彼^あノ^まノ^かノ^たノ^はノ^たノ^まノ^うノ^まノ^り。ま^つと^こ王^お章^あを^つい^て
 ち^しま^うて^も山^{やま}の^わら^んを^から^られ^まし^め。サ^ア八^ハ里
 半^{はん}じ^うと。二^に割^{かく}の^まつ^りや^まと^まつ^りを^な角^{かく}を。二^に半^{はん}採^{さい}
 て。そ^の中^{ちゆう}へ^大大^{だい}嫉^{しやく}あ^らま^へり^まさ^らへ^りま^じら^りも^ち
まま^ませ^ぬみ^をを^ひか^へり^はら^りの^あら^らひ^をの^しめ^られ^るも^のし^らひ^が

彼^あノ^と底^{そこ}の^折角^{かく}人^{ひと}目^めを^志の^{んで}井^い汲^{くみ}り^て
 使^しま^せし^めり^しの^もの^をも^ちの^しめ^りと^捨り^ても^めり^しに^使じ^られ^り
 ち^まま^まの^あら^らひ^をの^しめ^られ^るも^のし^らひ^が拾^{しよ}ひ^集めて
 ち^まま^まの^あら^らひ^をの^しめ^られ^るも^のし^らひ^が上^う風^{ふう}も^さら^りて^お後^{あと}
 ち^まま^まの^あら^らひ^をの^しめ^られ^るも^のし^らひ^が相^あ殺^{ころ}し^ます^はら^りも^めり^し七^{しち}ノ^イヤ^ヤ尾^び
 ち^まま^まの^あら^らひ^をの^しめ^られ^るも^のし^らひ^がち^まま^まの^あら^らひ^をの^しめ^られ^るも^のし^らひ^が
 ち^まま^まの^あら^らひ^をの^しめ^られ^るも^のし^らひ^がち^まま^まの^あら^らひ^をの^しめ^られ^るも^のし^らひ^が
 ち^まま^まの^あら^らひ^をの^しめ^られ^るも^のし^らひ^がち^まま^まの^あら^らひ^をの^しめ^られ^るも^のし^らひ^が
 ち^まま^まの^あら^らひ^をの^しめ^られ^るも^のし^らひ^がち^まま^まの^あら^らひ^をの^しめ^られ^るも^のし^らひ^が

う。こころまゝにナヤム。ちみぢ。ぢれ。た。くら
ト視るを
下柳
よく搦く。お出る。ふる。服七。ザヤ。是ハ。紙。が。遠。ツ。と
ちが
吾ら。ゴ。ッ。コ。ッ。百。ツ。ね。屋。入。酒。み。合。辛。妙。又。味。着
味を
た。つ。よ。み。か。え。一。合。タ。ヤ。一。あ。り。ヤ。ヤ。酒。屋。の。出。ち
ひらや
な。せ。バ。ガ。レ。ン。ヤ。必。須。内。田。の。出。ち。一。と。も。い。ぢ。も。相。合。と
つなあり
噺。ア。ト。ま。か。ら。う。り。餘。け。の。そ。と。ち。ま。一。し。を。激
しやく
務。し。を。集。め。し。一。ま。じ。ら。し。し。一。は。い。し。ハ。お。と。し。め。一
のこ
あり
た。と。ん。ん。の。是。し。の。ち。と。ぐ。う。一。し。の。の。を。一。田。の。無。ち。一

服七。モ。と。れ。お。の。け。け。く。く。一。く。ま。バ。レ。一。イ。と。お。し
みち
ちん
チ。ト。又。復。を。出。し。を。種。の。り。も。む。じ。ん。の。ま。せ。し。が。一。ち
ぬ
ま。い。よ。一。ち。一。ぐ。う。五。十。十。一。し。ん。一。ち。一。ぐ。う。一。ち
ちち
たせ
諸。を。一。ち。お。ぢ。の。い。お。く。し。し。一。し。し。の。お。し。し。ん
つらぢ
ち。せ。し。一。ち。お。ぢ。一。サ。一。し。し。の。お。し。し。の。お。し。し。の。お。し。し。
あは
た
茶。と。一。ち。お。ぢ。の。お。ぢ。の。お。し。し。の。お。し。し。の。お。し。し。
あは
た
茶。と。一。ち。お。ぢ。の。お。ぢ。の。お。し。し。の。お。し。し。の。お。し。し。
あは
た
茶。と。一。ち。お。ぢ。の。お。ぢ。の。お。し。し。の。お。し。し。の。お。し。し。
あは
た



敬元
 友永寺
 即哉
 人
 おち
 茶
 茶
 茶



景物
 先
 向
 人
 茶
 茶

まつ。そのごのめある。一いね。服七ノイヤまゝのるよ。一ト
 切あつたを。果^{これ}ぐ。法^{おん}たぐなるよ。法^{かど}りごの秘ひと
 ひとまづ。一くれぐ。お遠^{さうい}ちゆく。法^{えんりや}出あれバ。トおまぶ
 び一先^{まが}つごご。げつらませら。あつ。たぬさり。昏中
 お^もま。びるおも。げつらます。ご。それかまらうの判^{ようつ}らめで
 ごぞろます。服七ノイヤ。美^{うけちん}侯^{ごあま}の。法^{あま}詔^{こつ}向^け。法^{あま}ま。一ごん
 サア。出^{てりまけ}目^ま助^{すけ}。おま^{かん}の。妻^{まよ}ごあり。由^ま途^ま向^け。ごけ
 ころたひ子^こ。出^で目^め。一ごん。致^ちし。と。ゆ^いづ。の。忠^{いあん}素^その。私^{こひ}。

どの詔^{めい}も。め。五^ごら。も。びつらませぬ。富^ふよ。一ごん
 ので。只^{ただ}人^{ひと}を。ぬの。を。二^にご。と。な^なし。と。ん^んご。う。つ。ご
 びつらします。法^さを。出^でま。ぬ。ふ。と。出^でま。一い。から。亮^{りやう}
 ち。で。げつらします。あつ。一途中^{とちゆう}で。は。繪^えを。見^み當^あり。は
 た。餘^{あま}り。せ。おのよ。画^え。を。入^いら。う。り。夢^{ゆめ}ご。せん。ほし
 一。是^{これ}。法^{おん}。ら。し。じ。ま。一。四^し天^{てん}王^{わう}が。鰥^{こう}を。退^{たい}治^ぢ。致^ちま。お。で
 びつらします。是^{これ}ご。お。ち。ま。は。ま。く。ん。ご。ませら。ち。な
 一。ま。よ。か。ち。あ。一。は。く。を。な。い。し。げ。つ。ら。ま。る。が。私^{こひ}。

たちもので。坂さかへりく〜とくたまのせえテ。そとで替かひ
 係あが。まふりよ清きよ白しろだ子こ首くびハイはい虫むし今いまヤやさあり
 弁あのあ白しろがか〜るるハは〜りりまませんせん 眼まなこ七しちハはハは
 ても。繪えをを〜りり斗たりりせり。瘡かさ癩せきええ舞ま舞まのの中なかううでで余あま
てののをを〜りりまますす子こ首くびハは〜りりまませんせん 眼まなこ七しちハはハは
 中なかののせせううがが。以も鏡かがみをを持もつつ糸いと〜ののいいちち〜ののせせううはは
あ〜まのの香か〜とと〜りりまますす 眼まなこ七しちハはハは
 むむ〜りりまますす 眼まなこ七しちハはハは

るる〜りりまますす 眼まなこ七しちハはハは
 かん〜りりまますす 眼まなこ七しちハはハは
 出で〜りりまますす 眼まなこ七しちハはハは
 だ。清きよ〜りりまますす 眼まなこ七しちハはハは
 せせ〜りりまますす 眼まなこ七しちハはハは
 今日けふののああ〜りりまますす 眼まなこ七しちハはハは
 お仕し〜りりまますす 眼まなこ七しちハはハは

日中^{ひちゆう}あつあつするゆるゆる^{ゆるゆる}は^は煙^{けい}がふるふ^{ふるふ}夕^{ゆふ}湯^ゆ料^{りょう}
 理^り中^{ちゆう}也^や。ち^ちり^り合^あせ^せの^のせ^せぬ^ぬひ^ひの^のい^いく^くか^か振^つれ^れ料^{りょう}理^り
 を^をさ^さし^し上^{じやう}チ^ちま^ませ^せう^う地^ち言^{ごん}ハ^ハい^いれ^れ。い^いち^ちん^んの^のい^いで^でじ^じや^やう
 ま^ませ^せう^うま^まハ^ハい^いさ^さふ^ふそ^そく^くち^ちら^ら。向^{むかひ}島^{しま}の名^な物^{ぶつ}を^をさ^さ
 上^{じやう}チ^ちま^ませ^せう^うト^トア^アバ^バち^ちら^らが^があ^あま^まい^い方^{かた}也^や。あ^あま^まい^い方^{かた}の^のい^いで^でじ^じや^やう
 ち^ちら^らア^アバ^バを^を席^{せき}友^{ゆう}ガ^ガマ^マノ^ノ敷^{しき}ど^ど。意^いが^が出^でま^ます^すト^トま^まれ
 た^た時^{とき}ハ^ハ電^{でん}の^の皮^{かわ}が^がい^いる^る程^{ほど}お^おり^りう^うま^まい^いは^はし^しい
 お^おい^い方^{かた}。い^いま^まじ^じや^やう^うま^ます^す。年^{ねん}ハ^ハイ^イヤ^ヤを^をお^おか^かし^し

だん^{だん}ハ^ハ教^{きやう}色^{しき}で^でい^いろ^ろる^るさ^さん^んま^まふ^ふ。イ^イヤ^ヤ大^{だい}笑^{しょう}ひ^ひで^でお
 ち^ちら^らま^まの^のち^ちら^らハ^ハい^いそ^それ^れが^が別^{べつ}ち^ち。笑^{しょう}ひ^ひ意^いど^どと^とじ^じや^やう
 ま^まの^の地^ち言^{ごん}ハ^ハい^いれ^れ。地^ち言^{ごん}丁^{てい}の^のこ^こ下^げ付^けあ^あん^んを^をふ^ふ。か^かん
 あ^あん^ん絞^{しぼ}ハ^ハほ^ほし^しい^いち^ちら^らハ^ハね^ね又^{また}重^{おも}平^{へい}り^りる^るえ^えを^を吸^すう^う物^{ぶつ}
 を^を一^{ひと}ッ^つ上^{じやう}チ^ちま^ませ^せう^うト^ト又^{また}み^みが^がら^らを^をい^い。是^{これ}ハ^ハ噴^{うそ}膚^くど^ど。こ
 ち^ちら^らま^まの^の目^めを^をあ^あめ^めと^とま^ます^すの^のい^いで^でか^かん^んハ^ハい^い
 イ^イヤ^ヤち^ちら^らの^の目^めなら^らま^ます^す。ち^ちら^らハ^ハ茶^{ちや}巾^{きん}を^を解^と解^とハ^ハい
 ち^ちら^らま^まの^の目^めは^ハ茶^{ちや}巾^{きん}を^を解^と解^とハ^ハい

まじりく〜とうりせ入わけ極極味味をさるさるのしんしん 服七
へまおろ〜る。ほちをわぐト服服の寄寄りよよいい 解
ま〜るを〜るま〜るののお物お物をぬるぬる。ま〜るま〜るののしんしん
服七 ヤレモ〜 潮潮〜昨日昨日実実ののお物お物ををさうぬぐぬぐのの
あま〜るぬるぬるののま〜るま〜るののしんしん入用入用なり 服七 い
サアをぬるあげあげま〜るま〜るののま〜るま〜るののしんしんをさうりさうりののおしおしささササ
さうほほま〜るま〜るへ借借け服七服七ががお物お物入入出出るる富次町富次町で
ま〜るま〜るとま〜るま〜るとま〜るま〜るののしんしんをさうりさうりののおしおしささササ

み筋みででお茶漬お茶漬でもおようおようちちささるる子子高高ろろハト
服七服七がが揮揮〜とれよとれよ黄黄漆漆ががま〜るま〜るののしんしんをさうりさうりののおしおしささササ
おとおとののおお茶漬茶漬ままででおお厚厚なるなる子子。ぬぬねねけけおお黄黄漆漆
へへよよくく塩塩がが〜みみささかかううででま〜るま〜るののしんしんをさうりさうりののおしおしささササ
かかららぬぬままのの香香〜ああらら〜鬼鬼々々ああらら。虎虎のの皮皮ででぬぬ〜
ま〜るま〜るののしんしんをさうりさうりののおしおしささササ
ま〜るま〜るののしんしんをさうりさうりののおしおしささササ
ま〜るま〜るののしんしんをさうりさうりののおしおしささササ
ま〜るま〜るののしんしんをさうりさうりののおしおしささササ
ま〜るま〜るののしんしんをさうりさうりののおしおしささササ



る
 名をひりく^どきり昔^{ひり}手^{ひり}中^{ひり}ま^{ひり}い^{ひり}り入^{ひり}サ^{ひり}ア^{ひり}く^{ひり}電^{ひり}を
 出^{ひり}ま^{ひり}ひ^{ひり}く^{ひり}ト^{ひり}人^{ひり}名^{ひり}の^{ひり}名^{ひり}ま^{ひり}を^{ひり}ひ^{ひり}く^{ひり}幸^{ひり}
 と^{ひり}る^{ひり}を^{ひり}物^{ひり}の^{ひり}後^{ひり}り^{ひり}左^{ひり}の^{ひり}と^{ひり}り

初編之目次

担任日通徳^{ひり}る

鹿島山	偶田川	高田	花屋敷	海安寺	吉原	浅草市
左徳 ^{ひり} 房	神宮松	華八	服七	又長	孫六	吞七
出目 ^{ひり} 安						

